川柳

写真１　川柳発祥の地の碑

川柳は、＜五・七・五＞で構成される俳句によく似た 17 音の短詩である。俳句とは異なり、季語や＜や・かな・けり＞などの切れ字の制限がなく、「風景を詠む」のではなく、内容が社会諷刺や人間模様など、「世情を物す」ことから、庶民的な言葉遊びに近いものに発展していった。今日も多くの人に楽しまれ、近年「サラ川」※1) が一般的に親しまれている。

「川柳」という名称は、柄井川柳の名前から呼ばれるようになった。柄井川柳（以下、柄井）は、1765（明和 2）年、川柳評前句付※2) 作者である呉陵軒可有と共に「誹風柳多留」を発刊し、俳諧の評価者として江戸に地位を確立した人物である。誹風柳多留は、柄井が「万句合」※3) で選んだ句の中から、掲載する作品を呉陵軒可有が選考しまとめた文芸書である。

本降りになって出ていく雨宿り　（「排風柳多留」掲載番号 597）

万句合は、1757（宝暦 7）年 10 月 7 日に柄井によって初めて開催された。以降、毎月 3 回行われ、一万句前後の応募があるほどの人気を博した。2007（平成 19）年、万句合が初めて開催されてから 250 年を記念し、開催の地（今の台東区蔵前 4 丁目）に川柳発祥の地の石碑（写真 1）が建てられた。柳井の肖像画のレリーフ（写真 2）が刻まれた赤茶色の石碑は、柳の木の下に佇み、川柳発祥を今に伝える。

※1)　「サラっと一句！わたしの川柳コンクール」の略称で、長く親しまれた前身の「サラリーマン川柳」から、働き方の多様化に加え、老若男女を問わずに幅広い人から募集したいとの主催者の意向から、2023年度分から改名された。
※2)　出題された前句＜七・七＞に合わせて付句＜五・七・五＞を考えたもの。
※3)　前句付を沢山集めて点数を付けて競争をする興行。

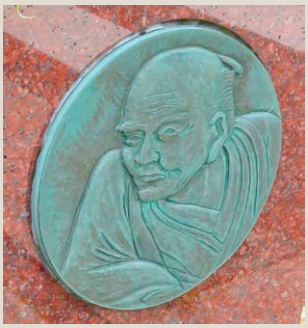

写真２　柄井川柳の肖像画レリーフ

＜参考＞
○発祥の地コレクション
https://840.gnpp.jp/
○ようこそたいとうへ　台東ぶらり散歩「日本ではじめての地を訪れる」 其の十五
https://stroly.com/viewer/_OP_1475740413